

## EUIJ 公開講演

内野杏子 (EUIJ-ICU 助手)

駐日欧州委員会代表部の「日 EU フレンドシップウィーク」のプログラムの一環として、ブリュッセル自由大学欧州研究所のエリック・ルマックル教授が ICU で公開講演を行った。6月5日に「EU の外交政策、外交政策システム」、6月7日には「欧州政治統合への道、歴史の教訓」の二つの講演が開催された。両講演ともに活発な質疑応答がなされ、参加者にとって大変有意義なものとなった。ここでは、6月5日の講演の要旨を紹介したい。

最初に、ルマックル教授は、理事会と欧州委員会の基礎知識について説明された。EU の政策および対外行動における 3 本の柱について触れ、第 1 の柱である共同体の柱は、第 2 の柱（共通外交安全保障政策、CFSP）と第 3 の柱（司法内務協力）以外の政策すべてを含むことが強調された。さらに、EU における代表制と政策形成には二つの方法がある。ひとつは、第 1 の柱で使われ、欧州委員会が EU を代表し、議題により特定多数決方式もしくは、全会一致をとるものである。もうひとつは第 2 と第 3 の柱で使われ、政府間主義に基づき、事務総長/上級代表に補佐される半年任期の議長国が EU を代表する。第 2 と第 3 の柱では、履行に当たっては、建設的棄権や特定多数決方式がとられることがあるが、政策決定は主に全会一致方式による。ルマックル教授は、共同体の柱と共通外交安全保障政策との相違の詳細についても言及された。

軍事作戦に関しては、EU が NATO のアセットを用いる場合と NATO の関与なく EU のみの場合の二種類を具体的な例を挙げ説明された。EU と NATO の関係について、汎大西洋主義、ヨーロッパ主義の二つの概念を使って説明された。また、競合的政府間主義、協力的政府間主義、CFSP/ESDP（欧州安全保障防衛政策）政府間主義レジーム、共同体構造外交政策という、四つのレベルの外交政策システムについても紹介された。

最後に、ルマックル教授は、EU の列柱と各国の政策の間で、混合形態の政策形成が存在していると述べた。ESDP について、各国と NATO および EU の間で協力と競合が並存していることが指摘された。